

## 本邦におけるロールシャッハ法に関する文献一覧 II

— 1960～1969年 —

佐渡 忠洋\*1・伊藤 宗親\*2

本稿の目的は、日本で報告されたロールシャッハ法の文献を、研究者が使用しやすい形で報告することである。前報（佐渡ほか，2012）においてわれわれは1930～1959年までの文献273編を列挙した（別にロールシャッハ法の専門書も示した）。本稿ではまず、前報の修正を行う。その後で、1960年代の10年間の文献（論文および著書）、計537編を年代順で列挙した。これにより、1930～1969年の間にわが国では824編の論文が報告されていたことが判明した。この資料が少しでも今後の研究と臨床に役立てば幸甚である。

〈キーワード〉 ロールシャッハ法，文献，論文

### I はじめに

ロールシャッハ法（Rorschach's Inkblot Method：RIM）は臨床現場での活用頻度は高く、魅力ある技法であるにもかかわらず、研究は下火の傾向にあるようだ。その理由はさまざま考えられるものの、RIMに惹かれる筆者らとしては、研究があまり報告されない現状が残念でならない。

筆者らは前報（佐渡ほか，2012）において、1930年～1959年までにわが国で報告されたRIMに関する文献273編を一覧にして報告した（同時に2011年までのRIM専門書123冊も列挙した）。この目的は、知見の積み重ねのための参照資料を提供し、研究者による先行研究の検索を助けること、そして少しでも臨床家が知見を参照しやすくすることであった。同じ目的から本稿では、1960年から1969年という、おそらく日本でRIM研究が盛んであった時期の文献一覧を報告する。1970年以降も合わせて報告しないのは、この1960年代という10年間で500編を超す論文が存在しており、この期間の文献情報をまとめるだけでも、十分大部なものになるためである。

以下、前報の修正と追加を示してから、1960年代の文献一覧を供していく。

### II 先の報告の修正と追加

前報（佐渡ほか，2012）の一覧にいくつか修正がある。まず、一覧から削除するものが2編、表記を修理するものが4編である。

**削除** 守屋光雄（1954）ロールシャッハ氏図形解釈検査法の吟味。児童心理学研究。京都印書館，pp.297-312。  
※1945年の守屋論文を重複して1954年にも掲載していた

**削除** Kawai, H. (1958). A modification of the multiple choice Rorschach for Japanese. 天理大学学報，25，168-186。 ※1958年に同じKawai論文を2つ掲載していた

**修正** 原谷達夫（1952）PERSONALTY研究に於ける“SYMBOL”の問題。心理学研究，22（1），128-131。  
⇒ 原谷達夫（1951）PERSONALTY研究に於ける“SYMBOL”の問題。心理学研究，22（1），128-131。  
※発表年の修正

**修正** 藤沢祐（1953）台湾高砂族の心理学的研究。民俗学研究，18（1-2），20-33。 ⇒ 藤沢祐（1952）台湾高砂族の心理学的研究。民俗学研究，18（1-2），20-33。 ※発表年の修正

**修正** 村上邦男・野田寛隆（1957）ロールシャッハ・テストによる知能診断に関する研究—年少児に試みたKlopfer等の“Form-Level Rating”。心理学研究，27（5），375-377。 ⇒ 村上邦男・野田寛隆（1956）ロールシャッハ・テストによる知能診断に関する研究—年少児に試みたKlopfer等の“Form-Level Rating”。心理学研究，27（5），375-377。 ※発表年の修正

**修正** 高橋雅春（1956）非行少年のロールシャッハ反応。西京大学学術報告，2（2），141-148。 [高橋雅春（1969）非行少年のロールシャッハ反応。In；岩井弘融・遠藤辰雄・樋口幸口・平野龍一（編）日本の犯罪学，第1巻。東京大学出版会，pp.247-252。再録。] ※再録先が判明した

\*1 常葉大学健康プロデュース学部      \*2 岐阜大学教育学部  
The Literature of the Rorschach's Inkblot Method in Japan, II: 1960-1969

さらに、1959年までに刊行されている論文で新しく発見したものが14編ある。以後は、海外雑誌に掲載された日本人研究者の論文（筆頭のみ）も、日本で刊行されている外国語雑誌に掲載された論文も、リストに加えることにした。

- 内村祐之（1950）稀有なる凌辱殺人事件の精神鑑定記録——小平義雄の犯罪。季刊人間研究, 1, 94-124, 56.  
相場均（1951）嫉妬の心理——ある少女の教育相談について。児童心理, 5（5）, 373-377, 382.  
林暲（1951）ロボットミーによる人格の変化。季刊人間研究, 3, 37-51.  
金子仁郎（1952）前頭葉切離術に依る精神神経学的研究——術中及術後の症状について。精神神経学雑誌, 54（4）, 318-326.  
Arai, S. & Kamiyama, I. (1954): Follow-up study of Normal Children with Special Reference to Rorschach Responses. *Pediatrics Japoica*, 2(4), 45-54.  
De Vos, G. (1954): A Comparison of the Personality Differences in Two Generations of Japanese Americans by Means of the Rorschach Test. *The Nagoya Journal of Medical Science*, 17, 153-265  
長尾直（1954）農婦と海女とロールシャッハ・テスト。生活文化研究, 3, 135-142.  
木村駿（1956）クロッパ他『ユングと投影技術』——ユング博士第八十回生誕記念シンポジウム。フィロソフィア, 29, 129-134.  
小見山栄一（編）（1956）投映法。改訂 性格・行動の見かたと記述のしかた。新光閣書店, pp.58-66.  
家近一郎（1957）ロールシャッハ・テストの結果から見た落付く児童と落付かない児童。教護, 77, 4-9.  
Kataguchi, Y. (1957): The Development of the Rorschach Test in Japan. *Journal of Projective Techniques*, 21(3), 258-260.  
Taniguchi, M., De Vos, G. & Murakami, E. (1958): Identification of Mother and Father Cards on the Rorschach by Japanese Normal and Delinquent Adolescents. *Journal of Projective Techniques*, 22(4), 453-460.  
Kataguchi, Y. (1959): Rorschach Schizophrenic Score (RSS). *Journal of Projective Techniques*, 23(2), 214-222.  
高木俊一郎（1959）夜尿症に関する研究報告。森脇要・池田和好・高木俊一郎（著）子供の心理療法——サイコセラピーの理論と実際。慶應通信, pp. 211-225.

以上により、1930年～1959年までの論文は287編とになった。なお、次の2編は実物を確認できなかったため、一覧には加えていない（カウントもしていない）。

- 新美良純・橋本仁司・望月一靖（1951）：Rorschach 検査に伴う G.S.R. の変化。プロジェクトブ・テクニク, 1, 8-15

- 祖父江孝男（1951）：日本人のパーソナリティの諸類型——Rorschach test による分析。プロジェクトブ・テクニク, 1, 1-7

### III 文献の収集方法

前報（佐渡ほか, 2012）と同じ方法で、1975年までの文献を収集して引用文献などを精査した。その結果、1960年から1969年のあいだに537編の文献（論文および著書）の存在が確認できた。

それらを年代ごとに著者・題目・雑誌名・巻号・頁の順で以下に示す。一覧は論文冒頭の記載にほぼ忠実に従ったが、掲載雑誌などは常用漢字に直した部分もある。なお、存在は分かっているが、雑誌や書籍の所蔵場所が把握できず、複写できなかったものは本一覧から除外した。

### IV 文献一覧(1960~1969年)

#### ◆1960年

- 安部寛：肢体不自由児における Rorschach Test に関する研究（第一編）——肢体不自由児の知能と Personality について。熊本医学会雑誌, 34（6）, 1137-1153.  
安部寛：肢体不自由児における Rorschach Test に関する研究(第二編)——療育による Personality の変化。熊本医学会雑誌, 34（6）, 1154-1170.  
秋谷たつ子・植元行男・後藤聡：Maske 反応について。ロールシャッハ研究, III, 219-225.  
秋山誠一郎：精神病質の心理学的検査による研究。矯正医学, 9（3）, 17-26.  
エーベル, T.M. & ワイスマン, S. (著) 石井英男・台弘 (訳)：心理学的側面。In; MacGregor, F. C.ほか(著) 石井英男・台弘 (訳) 顔の変形と整容の心理。医歯薬出版, pp.125-158. 【原著：Macgregor, F.C. (1953). *Facial deformities and plastic surgery, a psychosocial study*. Springfield: Thomas.】  
遠藤辰雄：ロールシャッハ・テストによるグリュック予測表の検討。法務総合研究所研究部紀要, 3, 49-57.  
藤本文朗：ロールシャッハ・テストによる精神薄弱児の人格診断。児童精神医学とその近接領域, 1（2）, 159-165.  
後藤聡・植元行男・秋谷たつ子・西尾明：ロールシャッハ・テストにおける内容および継起分析。ロールシャッハ研究, III, 226-233.  
後藤平：慢性覚醒剤中毒長期入院例の臨床——特に分裂病との比較。精神神経学雑誌, 62（1）, 163-176.  
長谷川保：側頭葉切除後の精神症状について。精神神経学雑誌, 62（2）, 398-431.

- 林英三郎：ロールシャッハ・テストからみた精神分裂病の寛解および欠陥について。日大医学雑誌，19 (6)，2096-2109.
- 広沢道考：ロールシャッハ・テストによるうつ病の一類型——付加的間隙反応について。ロールシャッハ研究，III，186-188.
- 堀越伸行：家族像に対する態度とロールシャッハ・M 反応との関連。ロールシャッハ研究，III，189-198.
- 堀内治世：ロールシャッハ図版の知覚過程の分析——瞬間露出呈示による試み。ロールシャッハ研究，III，1-22.
- 堀内治世・斎藤久美子・山本昭二郎・山本博子：特殊宗教家のロールシャッハ反応。心理学研究，31 (2)，114-121.
- 保坂智子・斎藤正己：Heroinismus と Alcoholismus——Rorschach Test よりみた考察。関西医科大学雑誌，12 (3)，446-452.
- 市村潤：ロールシャッハ・テストによる非行少年の再犯予測。家庭裁判所調査官研修所研修論文集，3，255-274.
- 市村潤：集団ロールシャッハ・テストによる非行予測。家庭裁判月報，12 (5)，97-110.
- 飯田真：ヒステリーのふたごのロールシャッハ・テストについて——ロールシャッハ研究における双生児法の意義。ロールシャッハ研究，III，149-160.
- 飯田真：一卵性のふたごにみられた強迫神経症の不完全一致例。精神医学，2 (9)，603-608.
- 飯田真：一卵性のふたごの一方に現われたヒステリーの1例。精神医学，2 (2)，95-99.
- 金子仁郎・辻悟・高石昇・三谷昭雄：皮膚疾患の精神身体学的研究 (その一)——慢性蕁麻疹について。精神分析研究，7 (5)，17-22.
- 片口安史：各分析者のロールシャッハ反応分類対照表。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.240-250.
- 片口安史：検査者自身の分析。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.187-210.
- 片口安史：めくら分析 (Blind Analysis) のための基礎資料。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.9-40.
- 片口安史：ロールシャッハ図版の刺激属性の分析——質問法 (Inquiry) 改善のための基礎研究。ロールシャッハ研究，III，23-38.
- 片口安史・村瀬孝雄・山本和郎・越智浩二郎：臨床心理学に測定を導入できるか。心理学評論，4 (2)，240-265.
- 加藤正明：事例の概要——精神医学的面接の記録。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.211-218.
- 加藤正明・片口安史・田頭寿子：男性同性愛の臨床的研究。精神衛生研究，8，1-26.
- 加藤みゆき：真性癲癇のロールシャッハ・テストによる臨床分類の研究。名古屋市立大学医学会雑誌，10 (4)，792-805.
- 河合隼雄：アメリカ便り——ことに Dr. Klopfer についての印象を中心に。ロールシャッハ研究，III，234-241.
- 河合隼雄：めくら分析 (その1)——Klopfer 法。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.41-49.
- 木津雅晴：精神分裂病患者の両親についての研究——ロールシャッハ・テストを中心として。大阪医科大学雑誌，20 (5)，1362-1387.
- 児玉省：非行少年——人格構造と環境。科学警察研究所報告，1 (1)，7-16.
- 児玉省：序——ロールシャッハ・シンポジウムについて。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.1-6.
- 児玉省：まとめ。In；応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.251-255.
- 児玉省：めくら分析 (その2)——日本女子大法。In；日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修)：ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号)。誠信書房，pp.50-88.
- 小峯友一：プロジェクトィブ、メソードによる性格類型の検出とその予診的研究について——ロールシャッハテスト並びに C・S・T からみた神経症の予診について。哲学，38，271-281.
- 久保松喜信・橋本健一・奥村晋・吉川寛：独居拘禁の人格に及ぼす影響。矯正医学，9 (特別)，67-70.
- 栗原喬一：精神分裂病の病的過程における Rorschach Test 研究。神経質，1 (1)，9-20.
- 桑原寛・岡部喜美子・馬場万寿：気管支喘息患者の初発反応時間および反応拒否について。ロールシャッハ研究，III，39-52.
- 松原達哉：ロールシャッハ・テスト。In；田中教育研究所 (編著) 人格の診断 (心理診断シリーズ③)。日本文化科学社，pp.40-41.
- 松岡武・曽根敏子：絵画内容の叙述伝達の仕方にもみられる精神薄弱児の特性。児童精神医学とその近接領域，1 (2)，177-189.
- 三谷昭雄：書痙の力動精神医学的研究。大阪大学医学雑誌，12 (12)，1577-1604.
- 百瀬剛一・島崎淳・片山喬・遠藤博志・内海滉・青木孝悦：男子性腺不全症の心理学的考察——ロールシャッハ法 (Rorschach Test) による研究。日本不妊学会雑誌，5 (7)，423-429.
- 本明寛・富田正利・湯本泰道：めくら分析 (その3) —

- 一早大法. In; 日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修): ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号). 誠信書房, pp.89-122.
- 本明寛: ロールシャッハ・テスト. In; 戸川行男・長島貞夫・正木正・本明寛・依田新 (編): 性格心理学講座, 第三巻. 金子書房, pp.91-99.
- 村上英治: めくら分析 (その 4) ——名大法. In; 日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修): ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号). 誠信書房, pp.123-142.
- 村上君子: スクリーニングとしてのロールシャッハテスト. 生活文化研究, 8, 75-78.
- 村田宏雄: ロールシャッハ・テスト. In; 少年犯罪鑑識. 日本評論新社, pp.164-167.
- 長坂五朗・栗林正男・武川圭弘: ロールシャッハ判定に関する研究. ロールシャッハ研究, III, 53-70.
- 中江正太郎・石井昌子: うつ病および反応性うつ病のロールシャッハ・テスト. 精神医学, 2 (4), 225-230.
- 岡部蓉子: ロールシャッハ・テストにおける色彩の効果と Semantic Differential. ロールシャッハ研究, III, 199-212.
- 大友茂: ロールシャッハ法による検査——プロジェクトイヴ メソッド (2). In; 改訂新版 実験児童心理学. 同文書院, pp.433-444.
- 大塚文雄: 精神分裂病の異種性に関するロールシャッハ研究. 大阪医科大学雑誌, 20 (2), 343-365.
- 大塚文雄: 定型・非定型精神分裂病のロールシャッハ・テスト. 精神医学, 2 (11), 749-753.
- 斎藤専一: 老人の精神医学的研究. 新潟医学会雑誌, 74 (11), 1505-1519.
- 齊藤優子: ロールシャッハ・カードにおける刺激効果の分析. ロールシャッハ研究, III, 213-218.
- 佐治守夫・竹村和子: 他の検査資料. In; 日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修): ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号). 誠信書房, pp.219-239.
- 佐藤桃平: ロールシャッハ・テストによるてんかんの研究 (補遺). ロールシャッハ研究, III, 71-89.
- 芹野陽一: 非行少年のロールシャッハ反応について. 教育・社会心理学研究, 1 (1), 96-99.
- 志満俊雄: 精神分裂病欠陥状態における臨床心理学的研究——(第 II 編) ロールシャッハ・テストについて. 山口医学, 9 (5), 1539-1547.
- 島田久一郎: てんかんの Rorschach-test に関する研究——所謂“側頭葉てんかん”を中心として. 精神神経学雑誌, 62 (7), 1222-1236.
- 杉本直人・田伏日出雄・下条和敏: 昏迷状態と性格. 精神医学, 2 (4), 231-237.
- 田伏日出雄: 精神分裂病の家族的研究——ロールシャッハ・テストを中心として見た患者と両親との関係. 岐阜医科大学紀要, 8 (5-1), 1720-1742.
- 多田治夫: 学生相談におけるロールシャッハ予後評定尺度の妥当性. ロールシャッハ研究, III, 90-98.
- 高橋艶子: ロールシャッハ・テストに於ける精神疾患の鑑別. 生物統計学雑誌, 7 (2), 45-58.
- 田中富士夫: ロールシャッハ・カードの象徴的意義——「父親カード」と「母親カード」の問題をめぐって. ロールシャッハ研究, III, 171-185.
- 戸田賀江: 飲酒者の人格研究——ロールシャッハ・テストによる. 精神神経学雑誌, 62 (14), 2147-2161.
- 坪井孝幸・中村一夫: ロールシャッハ精神診断法による尊属殺人者の研究. 精神医学, 2 (12), 839-846. [岩井弘融・遠藤辰雄・樋口幸口・平野龍一 (編) (1969): 日本の犯罪学, 第 1 巻. 東京大学出版会, pp.253-265. 所収.]
- 筒井健雄: 幼児の適応とロールシャッハの好悪選択. ロールシャッハ研究, III, 99-113.
- 辻悟: めくら分析 (その 5) ——阪大法. In; 日本応用心理学会 (編) 児玉省 (監修): ロールシャッハテストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより (ロールシャッハ研究・臨時増刊号). 誠信書房, pp.143-186.
- 辻悟・林正延: 著しく Vista を示した 1 症例. ロールシャッハ研究, III, 161-170.
- 渡辺亮: ロールシャッハ法の有効性 (中間報告) ——教育の仕事の分野において. 教育研究, 15 (2), 46-47.
- 山田旭: M.M.P.I. 及びロールシャッハ・テストによる精神障害者の類型診断——精神分裂病及び神経症について. 教育心理学研究, 8 (2), 92-105. [石橋教授開講十周年記念会 (編) (1963): 石橋教授開講十周年記念論文集. 石橋教授開講十周年記念会, 頁数なし. 所収.]
- 山本和郎: ロールシャッハ・テストによるブラインドアナリシスの過程に関する数量的研究. ロールシャッハ研究, III, 114-134.
- 山本多喜司・林昌三・碓井公明: ロールシャッハ・スコアリング・カテゴリーの因子分析的研究——中学生と非行少年の比較. ロールシャッハ研究, III, 135-148.

## ◆1961 年

- 安達達五郎: 改訂ロールシャッハ診断法による肺結核患者の性格. 新潟医学会雑誌, 75 (8), 921-928.
- 秋谷たつ子: R. クーン《ロールシャッハの心理学と形態判断の心理学的原理について》. ロールシャッハ研究, IV, 204-209.
- 秋山誠一郎: David Rapaport 博士の逝去を悼む. ロールシャッハ研究, IV, 239-242.
- 新井清三郎・磯部裕子・大脇三恵子・丸山直美: 正常小児の Follow-up study (第 2 報) ——家族関係, Gesell, Rorschach に関する 3 年半の研究. 小児科臨床, 14 (6), 549-558.
- 馬場礼子: 自我心理学にもとづくロールシャッハテストの了解について. ロールシャッハ研究, IV, 155-169.
- 遠藤辰雄: 犯罪心理学における研究の概観. 心理学研究, 32 (5), 320-332.
- 広瀬伸男・飯田康雄・山口弘三・岩崎敏夫・緑川澄子: 精神病者の放火に関する研究. 精神医学, 3 (10), 831-835.
- 藤本文朗: ある非行精神薄弱児のロールシャッハ反応と

- 心理療法. ロールシャッハ研究, IV, 189-203.
- 藤沢 祐・浜田 哲郎: F スケールによる人格の研究 I. 教育・社会心理学研究, 2 (1), 35-46.
- 福井 東一: 電撃療法施行による情緒性の変化——ロールシャッハ法による. 神経質, 2 (2), 43-55.
- 久間 利昭: F. ミンコフスカ《ロールシャッハ・テスト——形態世界の研究》. ロールシャッハ研究, IV, 225-238.
- Horiuchi, H. : A study of perceptual process of Rorschach cards by tachistoscopic method on movement and shading responses. *Journal of Projective Techniques*, 25(1), 44-53. [Hama, H. (1971): A study of perceptual process of Rorschach cards by tachistoscopic method on movement and shading responses. ロールシャッハ研究, X III, 115-129. 再掲.]
- 堀内 治世: ロールシャッハ・カードの瞬間露出提示による知覚過程の研究. 同志社大学人文学会 人文学, 51, 29-48.
- 市村 潤: 非行少年の性格診断法——ロールシャッハ・テストの適用. 家庭裁判所調査官実務研究報告書, 1, 1-193.
- 市村 潤: ロールシャッハ・テストによる非行少年の予後評定尺度の試み. ロールシャッハ研究, IV, 128-133.
- 井上 和子: 児童のロールシャッハ反応——“反応の単位のあいまいさ”について. ロールシャッハ研究, IV, 10-27.
- 石橋 祝・中塚 博勝: 施設夜尿児の統計的観察. 小児の精神と神経, 1 (5), 354-361.
- 石田 衛・水野 精一・酒井 泰一・大谷 亘・銭谷 力・細田 令・喜多 義昭・岡崎 六郎: 週期性不機嫌に於ける脳波とロールシャッハテストについて. 京都府立医科大学雑誌, 69 (3), 685-692.
- 石田 政久・西大 條満: ロールシャッハ・テストにおける形態水準評定法について——片口法の加点化への試み. ロールシャッハ研究, IV, 134-141.
- 金子 仁郎・辻 悟・藤井 久和・坂本 昭三・小林 進・清水 将之: 心因性頻渴症の 1 症例についての精神身体医学的考察. 精神医学, 3 (10), 821-829.
- 片口 安史: 現代一流作家の心理診断報告. 国文学 (解釈と鑑賞), 26 (14), 22-216. [後に次の 2 つの書籍になる. 黒川内平 (編) (1962) 現代作家の心理診断と新しい作家論. 至文堂. / 片口安史 (1982) 新版 作家の診断——ロールシャッハ・テストから創作心理の秘密をさぐる. 新曜社.]
- 片口 安史: 臨床精神医学におけるロールシャッハ法の適用について. 精神衛生研究, 9, 1-23.
- Kikuchi, T. : Rorschach response and epileptic personality. *Tohoku psychologica folia*, 19(3-4), 93-102.
- Kikuchi, T., Kitamura, S. and Oyama, M. : Rorschach performance in alcoholic intoxication. *Tohoku psychologica folia*, 20(1-2), 45-71.
- 木内 貞: 片頭痛の精神医学的研究. 精神神経学雑誌, 63 (5), 542-557.
- 久保 松喜信: 独居拘禁の人格に与える影響について——ロールシャッハ・テストでとらえた側面. ロールシャッハ研究, IV, 28-39.
- 栗原 喬一: ロールシャッハ・テストによる精神分裂病的過程の研究. ロールシャッハ研究, IV, 40-48.
- 黒田 健次・村田 正次: ロールシャッハ・テストにおける性反応の実験的研究 1. ロールシャッハ研究, IV, 49-64.
- 森 彬: 再入少年のロールシャッハ反応について (I). 矯正職務研究, 4, 24-30.
- 村田 正次・黒田 健次: 幼児のロールシャッハ反応の研究. ロールシャッハ研究, IV, 142-148.
- 小此 木啓吾・馬場 礼子: 自我機能の弾力性と適応性について——ロールシャッハ・テストの精神分析学的研究 (その三). 精神分析研究, 8 (1), 8-19.
- 大熊 文男: 真性てんかんの性格特徴——ロールシャッハ・テストによる検討. ロールシャッハ研究, IV, 149-154.
- 大熊 文男: 真性てんかんの性格特徴 (その 2) ——ロールシャッハ・テストについて. 精神医学, 3 (2), 119-127.
- 大伴 茂: 青年前期天才児の病理的人格に関する実験的研究——ロールシャッハ・テストによる天才児——八人の精神病理的検診. In: 日本天才児の心理学的研究. 弘文堂, pp.237-258.
- 大塚 文雄・木津 雅晴・隠岐 忠彦: 汎神経症のロールシャッハ研究. 精神医学, 3 (3), 193-198.
- 大山 正・杉山 善朗・西里 静彦: 精神分裂病と神経症との判別におけるロールシャッハ・スコアの有効性の検討——簡便判別法と新 RSS の提案. ロールシャッハ研究, IV, 65-79.
- 佐藤 幹正・前田 恒: てんかん患者のロールシャッハ・テストに関する研究. 鹿児島大学医学雑誌, 12 (5), 2668-2684.
- 佐竹 隆三: Ewald Bohm 博士の思い出——特に彼のアメリカ嫌いの分析. ロールシャッハ研究, IV, 210-224.
- 外林 大作: 漠然とした模様——ロールシャッハ検査法. In: 改訂版 性格の診断. 文弘社, pp.69-112.
- 住田 勝美・林 勝造・一谷 彊: ロールシャッハ反応による P-F Study 因子の妥当性の検討. ロールシャッハ研究, IV, 80-94.
- 高橋 雅春: 鑑別診断におけるプロジェクトブ・テクニック. 心理学評論, 5 (1), 23-52.
- 高橋 茂雄: カード提示順序の変更がロールシャッハ検査結果に及ぼす影響 (2) ——特に反応量について. 心理学研究, 32 (2), 97-101.
- 高瀬 安貞: 脳性麻痺の心理的側面について. 小児の精神と神経, 1 (2), 123-130.
- 瀧 清子: 分裂病者のアマタール静注時における Rorschach 像の変化について. 東京都立大学人文学会 人文学報, 23, 15-32. [瀧清子 (1962): 分裂病患者のアミタール静注によって生ずる病像の変化——Rorschach Test による検索. ロールシャッハ研究, V, 214-228. 再掲.]
- 瀧 清子: ロールシャッハ反応によって精神分裂病を診断するさいの一つの仮説. ロールシャッハ研究, IV, 170-182.
- 辰 昭広吉: 高所における医学的考察. 体育研究所紀要,

- 1 (1), 55-90.
- 辻悟・林正延：精神身体症におけるロールシャッハ・テスト。ロールシャッハ研究, IV, 95-111.
- 植元行男・秋谷たつ子・西尾明・後藤聡：ロールシャッハ・テストによる価値態度の考案。ロールシャッハ研究, IV, 183-188.
- 宇佐晋一：森田療法の神経症に対する治療効果のロールシャッハ・テストによる研究。精神神経学雑誌, 63 (6), 575-591.
- Vorhaus, P.G. (著)・井田節子 (訳)：ブルーノ・クロッパ小伝。ロールシャッハ研究, IV, 1-9. [Vorhaus, P.G. (著)・井田節子 (訳) (1972)：ブルーノ・クロッパ小伝。ロールシャッハ研究, XVII, 179-187. 再掲]。【原著；Vorhaus, P.G. (1960) Bruno Klopfer: A biographical sketch. *Journal of Projective Technique*, 24(3), 232-237.】
- 矢吹賀江・平松麗子：Asthenopia nervosa に対する Rorschach Test について。東邦医学会雑誌, 8 (1), 187-193.
- 山本和郎：ロールシャッハ・テストによるブラインドアナリシスの過程に関する数量的研究 (II) ——情報測定による分析。ロールシャッハ研究, IV, 112-133.
- ◆1962年
- 秋谷たつ子：ショックについて。ロールシャッハ研究, V, 162-167.
- 青木和雄：ロールシャッハ・テストによる非行少年の人格診断。横浜市教育研究所研究紀要, 20, 137-159.
- 新井清三郎・丸山直美・大脇三恵子：正常小児の Follow-up Study (第3報) ——家族関係, 体型, Gesell, Rorschach に関する3年間の研究。小児科臨床, 15 (4), 350-363.
- 荒井保男：老年者のロールシャッハ・テスト。老年病, 6 (2), 39-45.
- 阪武彦：ロールシャッハ・テストにおける m 反応についての研究。ロールシャッハ研究, V, 87-95.
- Bowlby, J. (著) 黒田実郎 (訳)：施設児と一般児におけるロールシャッハ反応の差異。In: 乳幼児の精神衛生。岩崎学術出版社, pp.152-158. 【原著；Bowlby, J. (1951). *Maternal care and mental health*. New York: World Health Organization.】
- 遠藤四郎：神経質症性不眠の精神生理学的研究。精神神経学雑誌, 64 (7), 673-707.
- 遠藤辰雄：非行 (犯罪) 予測に関する研究 —— 法務総合研究所における研究を中心として。犯罪学年報, 1, 67-105.
- 深見淳一：外鼻形態に対する態度の研究。耳鼻咽喉科展望, 5 (Sup.), 44-76.
- 福水保郎：ロールシャッハ精神診断法による多種方向犯罪者の精神医学的, 犯罪学的研究 (1)。犯罪学雑誌, 28 (3), 100-113.
- 久間利昭：W. ベッハヤ「臨床検査法としてのロールシャッハ・テストの有用性について」。ロールシャッハ研究, V, 184-187.
- 堀内治世：ロールシャッハカードにおける象徴的意味について。同志社大学人文学会 人文学, 59, 37-62.
- Huzioka, Y. : Rorschach test in farming villages of North Tailand. In: T. Kira (ed.), *Nature and life south-east Asia, Vol.II*. Kyoto: Fauna and Flora Research Society, pp.139-273.
- 藤岡喜愛：一流作家のロールシャッハ法診断——片口氏の資料によるメクラ診断の報告。国文学 (解釈と鑑賞), 27 (14), 160-168.
- 市村潤：ロールシャッハ・テストによる非行予測の若干の問題について。家庭裁判所調査官研修所 調研紀要, 2 (1), 81-85.
- 井上和子：ロールシャッハ・テストの診断性の研究——親子関係診断の場合。ロールシャッハ研究, V, 1-8.
- 乾原正：知能優秀児のパースナリティ特性に関する一実験的研究——ロールシャッハ法による。関西学院大学人文論究, 12 (4), 277-293.
- 金子仁郎・辻悟・藤井久和：高血圧の心身医学的考察。最新医学, 17 (9), 2076-2083.
- 片口安史：ロールシャッハ法。In: 片口安史・大山正 (編)：医学のための心理学。誠信書房, pp.156-169.
- 河合隼雄：現象学的接近法について——ロールシャッハ法における方法論の問題。ロールシャッハ研究, V, 150-161. [河合隼雄 (1969)：臨床場面におけるロールシャッハ法。岩崎学術出版社, pp.217-233. 加筆して所収。]
- 河合隼雄・高橋史郎：遊戯療法の前後に施行したロールシャッハ法に言語連想法を併用した例。ロールシャッハ研究, V, 168-179. [河合隼雄 (1969)：臨床場面におけるロールシャッハ法。岩崎学術出版社, pp.196-216. 加筆して所収。]
- Kikuchi, T., Kitamura, S. and Oyama, M. : Rorschach performance in alcoholic intoxication: II. *Tohoku psychologica folia*, 21, 19-46.
- 木村定・長岡靖子・芦田美彌子・橋本智慧子・永松ルミ子・三好暁光：心因性摂食過多の1例。精神医学, 4 (6), 389-392.
- 小林治夫：ロールシャッハ検査。愛育, 27 (5), 30.
- 児玉省：非行性の性格像——心理検査法の機能と使命。犯罪学年報, 1, 17-48.
- 児玉省：繰返し法に現われるロールシャッハ・カテゴリーにおける変化の検討。ロールシャッハ研究, V, 9-25.
- Kumar, P. : Popular responses in the Rorschach test. *Psychologia*, (3), 161-169.
- 黒田喜久二：年少非行少年のロールシャッハ反応——片口修正 BRS について。ロールシャッハ研究, V, 143-149.
- 丸山芳也・望月晃：寛解分裂病者の人格構造について——Rorschach Test による検討。精神医学研究所業績集, 9, 113-119.
- 西尾明・米倉育男・緑川澄子・伊藤克彦：飲酒嗜癖者のロールシャッハ反応——pattern analysis を中心に。ロールシャッハ研究, V, 26-38.
- 小此木啓吾：ロールシャッハテストの実施をめぐって。精神科学, 16 (11), 28-31.
- 小此木啓吾・馬場礼子：いわゆる芸術家における自我機能の<創造性>と<適応性>——ロールシャッハ・テ

ストの精神分析学的研究 (その四) . 精神分析研究, 9 (2) , 1-9.

大塚義孝: 殺人未遂児童とその家族の臨床的研究——とくに実験衝動診断法を中心として. 児童精神医学とその近接領域, 3 (4) , 214-226.

大塚義孝・西谷裕: 原爆被災者の臨床心理学的研究——とくにロールシャッハ・テストの立場から. ロールシャッハ研究, V, 39-55.

大山正: 滝沢さんの思い出. ロールシャッハ研究, V, 189-192.

大山正・杉山善朗・南里礼子: ロールシャッハ・スコアと質問紙法検査 (MAS, Y-G 検査) の相関について. ロールシャッハ研究, V, 56-65.

斎藤久美子: ロールシャッハ・テストと一質問紙法 (自己評価法) による適応の研究. ロールシャッハ研究, V, 66-86.

佐藤尚信: ロールシャッハ・テストによる精神分裂病寛解状態の研究——特に緊張型を中心として. 千葉医学会雑誌, 38 (3-4) , 244-253.

関根忠直・秋谷たつ子・馬場宗雄・緑川澄子: ロールシャッハ・テストと TAT からみた精神分裂病・神経症の潜在的同性愛について. ロールシャッハ研究, V, 96-106.

篠田勝郎・久間利昭・守屋昭夫: Z. エルマン《ロールシャッハ・テストと脳波との関連》——絵画テストを補足し, てんかんの児童に 5 年間に亘って行なった研究. ロールシャッハ研究, V, 180-183.

空井健三: ロールシャッハ・テストによる研究. 法務総合研究所研究部紀要, 1962 年版, 45-57.

高橋雅春: 臨床心理学におけるロールシャッハ・テスト——少年鑑別所の場合. 臨床心理, 1 (5) , 7-10.

高柳信子・鮑戸弘: Semantic Differential 法によるロールシャッハインクプロットの意味構造の研究. ロールシャッハ研究, V, 107-121.

竹内輝博: 酒精中毒者の性格分析とその予後についての一研究. 新潟医学会雑誌, 76 (5) , 483-495.

竹山恒寿・大原健士郎・甘楽昌子・増野肇: 幻聴発作の 1 例. 児童精神医学とその近接領域, 3 (3) , 175-180.

谷嘉代子・麻田泰子: 児童のロールシャッハ・テスト. 大阪市立大学家政学部紀要 児童学, 10, 111-113.

上田順一: ロールシャッハ・テスト反応におよぼす検査者の影響に関する研究 (1) ——検査者の好感度と基礎的評定結果との関係. 島根大学論集 (教育科学) , 11, 86-92. [上田順一 (1963) : ロールシャッハ・テスト反応におよぼす検査者の影響に関する研究 (1) ——検査者の好感度と基礎的評定結果との関係. ロールシャッハ研究, V, 122-131. 再掲.]

植元行男・福沢弥彦・秋谷たつ子・西尾明・関根忠直・米倉育男・中田実: 非行少年の社会 - 心理学的研究 (第 II 編) ——非行少年の心理学的研究. 矯正医学, 11 (4) , 32-40.

植元行男・村上英治・秋谷たつ子・江見佳俊・西尾明・DeVos, J.・星野命・谷口真弓・蛭川栄: 上記四種テストの結果からみた集団人間像の諸特徴の総括. In ; 村松常雄 (編) : 日本人——文化とパーソナリティの実証的研究. 黎明書房, pp.236-247.

植元行男・村上英治・秋谷たつ子・江見佳俊・西尾明・DeVos, J.・星野命・谷口真弓・蛭川栄: 家族研究の記録. In ; 村松常雄 (編) : 日本人——文化とパーソナリティの実証的研究, 黎明書房, pp.470-590.

植元行男・村上英治・秋谷たつ子・江見佳俊・西尾明・DeVos, J.・星野命・谷口真弓・蛭川栄: ロールシャッハ・テストの結果からみた集団人間像における諸特徴. In ; 村松常雄 (編) : 日本人——文化とパーソナリティの実証的研究. 黎明書房, pp.206-235.

植元行男・村上英治・秋谷たつ子・江見佳俊・西尾明・DeVos, J.・星野命・谷口真弓・蛭川栄: 集団人間像と文化像との関連についての考察. In ; 村松常雄 (編) : 日本人——文化とパーソナリティの実証的研究. 黎明書房, pp.451-465.

碓井公明: 有意味図形認知に及ぼす色彩効果に関する研究——Rorschach 仮説の実験的検討. 島根県立大学短期大学部紀要, 1, 60-76.

宇津野晶子: 気管支喘息のロールシャッハ・テスト——他の医学的要因との関連においての一考察. ロールシャッハ研究, V, 132-142.

## ◆1963 年

秋谷たつ子・下坂幸三: 思春期やせ症のロールシャッハ・テスト. ロールシャッハ研究, VI, 115-133.

新井清三郎・堀浩・近藤洋一・丸山直美: てんかん小児 2 例の 5 ヶ年にわたる多元的研究. 臨床内科小児科, 18 (1) , 19-30.

新井清三郎・大脇三恵子・小沢牧子: 正常小児の Follow-up Study (第 4 報) ——家族関係, 体型, Gesell, Rorschach に関する 3 年半の研究. 小児科臨床, 16 (4) , 402-410.

荒井保男: 老人の心理テスト. 厚生指標, 10 (11) , 22-27.

浜中薫香・築山裕子・玉池純子・浜田静枝: 小児喘息児のロールシャッハ・テスト. ロールシャッハ研究, VI, 134-146.

林田健男: 外科方面における心身症の発生. 精神身体医学, 3 (5) , 271-274.

Huzioka, Y. : Modal personality of people in Nagir through the Rorschach technique. In; Imanishi, K. (ed.) *Personality and health in Hunza valley*. Kyoto University (Results of the Kyoto University scientific expedition to the Karakoram and Hindukush, 1955, Vol.V). Kyoto University. pp.23-299.

市村潤・石原悟・川崎英子: 非行少女におけるロールシャッハ・テストの結果について. 家庭裁判所調査官研修所 調研紀要, 4, 101-103.

市村潤・当田修久: 精神病質非行少年の Affect について. 家庭裁判所調査官研修所 調研紀要, 4, 13-17.

井上和子: 児童に対して施行するロールシャッハテストとその結果の報告. 大阪府青少年問題研究会 青少年問題研究, 4, 47-65.

坂谷美代子: 幼児に施行したロールシャッハ・テスト——固執反応について. ロールシャッハ研究, VI, 68-84.

- Kaneko, Z. and Takaishi, N. : Psychosomatic studies on chronic urticarial. *Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica*, 17(1), 16-24.
- 片口安史: ロールシャッハ法. In ; 井村恒郎 (監修) : 臨床心理検査法. 医学書院, pp.95-165.
- 川端利彦・藤本文朗・井上和子: 脳損傷をともなった 1 精神病児童の症状論的考察. 児童精神医学とその近接領域, 4 (4) , 256-263.
- Kikuchi, T., Sato, I. and Ohyama, M. : Types of Alcoholic Alteration of Rorschach Test Performance: A Case Study. *Tohoku psychological folia*, 21(4), 97-105.
- 菊池哲彦・大山正博・佐藤功: アルコール酩酊時のロールシャッハ・テスト・パフォーマンスの特質 (IV) — Fisher and Cleveland's Body-Image Boundary Score の変化について. ロールシャッハ研究, VI, 46-67.
- 小松教之: 入院児童への集団指導の試み——児童病棟をもたぬ精神病院における場合. 児童精神医学とその近接領域, 4 (2-3) , 144-151.
- 久保松喜信: ロールシャッハ・テストの信頼性について. ロールシャッハ研究, VI, 85-97.
- 松田祥子・三原洋子: ロールシャッハ・テストによる精神薄弱児の類型的研究. 精神薄弱児教育の研究, 1, 125-133.
- 松本胖: 精神疾患における心身症の発生. 精神身体医学, 3 (5) , 267-270.
- 村田正次・黒田健次・谷本博司・平井香代子: ロールシャッハ・テストにおける性反応の実験的研究 II. ロールシャッハ研究, VI, 35-45.
- 野西恵三: 恋愛状態にある学生についての一研究——その 1 ロールシャッハ・テストによる調査. 宮崎大学学芸学部紀要 人文科学, 15, 15-19.
- 岡部祥平: ロールシャッハ・テストによる精神分裂病の研究. ロールシャッハ研究, VI, 182-193.
- 岡本栄一: ロールシャッハ・テストの妥当性——Eysenck 批判の理論的考察. ロールシャッハ研究, VI, 215-221.
- 越智信子: 幼稚園児における Rorschach 反応の推移について. 愛媛大学紀要 (第 5 部, 教育科学), 10 (1) , 57-72.
- 小此木啓吾・馬場礼子: 精神分裂病患者の器官言語と身体自我障害——ロールシャッハ・テストの精神分析学的研究 (その 5) . 精神分析研究, 10 (2) , 1-7.
- 小此木啓吾・馬場礼子: 精神医学におけるロールシャッハ・テストの役割について. In ; 三浦岱栄教授還暦記念論文集刊行委員会 (編) 三浦岱栄教授還暦記念論文集. 慶応義塾大学医学部神経科教室, pp.225-230.
- 大伴公馬: ロールシャッハ・テスト (Rorschach Test) . In ; 増補版 人格診断法. 黎明書房, pp.213-243.
- 大塚文雄: 離人症のロールシャッハ研究. 大阪医科大学雑誌, 22 (1) , 13-17.
- 大塚文雄・津田清重・隠岐忠彦・大塚義孝・山本昭二郎: 児童殺人の事例研究. 犯罪学雑誌, 29 (1) , 7-14.
- 大海作夫: めまいの心身医学的研究. 大阪大学医学雑誌, 15 (1-2) , 1-22.
- Raychaudhuri, M. : Studies in Artistic Creativity: Personality of the Indian Musicians. ロールシャッハ研究, VI, 194-214.
- 佐藤愛・吉田邦夫・小松教之・岩本正次: 少年の服装倒錯の一症例について. 児童精神医学とその近接領域, 4 (2-3) , 182-189.
- 佐藤忠司: 先行プロット依存の構造特性を持ったインクプロット・シリーズ. ロールシャッハ研究, VI, 1-18.
- Sato, I. and Ohyama, M. : Studies on Sensory Deprivation: I. Preliminary Studies, Part 3: Rorschach Performance in Sensory Deprivation. *Tohoku psychological folia*, 22(1-2), 15-35.
- 七条小次郎・小林節雄・苗木隆三・大沢雄二郎・近藤忠徳・金子由之助・佐藤祐司・浦野恭・宇津野晶子: 喘息. 精神身体医学, 3 (3) , 142-147.
- 鈴木達也・田中富士夫・多田治夫・松本清子: 精神分裂病患者に対するクロルプロマジンの効果——心理学的検査所見を中心として. 金沢大学法文学部論集 (哲学史学篇) , 11, 85-135.
- 高橋茂雄: Eysenck のロールシャッハ・テスト批判について. ロールシャッハ研究, VI, 222-228.
- 高橋茂雄: カード提示順序がロールシャッハ・インクプロットの刺激価に及ぼす影響. 心理学研究, 34 (4) , 178-183.
- 高橋茂雄: 集団ロールシャッハ法により心理診断に用いられるスコアリング仮定の統計的分析. 心理学研究, 34 (2) , 74-83.
- 高橋徹 (抄訳) : Schachter, M. & Cotte, S. 《子供の自殺企図——ロールシャッハ・テストによる社会医学的心理学的研究》. ロールシャッハ研究, VI, 232-235.
- 高橋徹 (抄訳) : Schachter, M. & Cotte, S. 《ロールシャッハ・テストにおけるマスク反応——その臨床心理学的意味》. ロールシャッハ研究, VI, 229-231.
- 津田通夫: m 反応についての一考察——非行少年を対象として. ロールシャッハ研究, VI, 98-105.
- 辻悟: 高血圧症の精神身体医学的考察. 日本内科学会雑誌, 52 (9) , 992-998.
- 辻悟: 消化性潰瘍の心理. 精神身体医学, 3 (3) , 166-173.
- 辻悟・藤井久和・林正延: 基礎形体レベル判定規準について. ロールシャッハ研究, VI, 147-181.
- 辻悟・坂本昭三・清水将之・大野周子・金子仁郎: 離人神経症の研究 (第 2 報) ——ロールシャッハ・テスト所見の解釈を中心として. 精神分析研究, 10 (4) , 10-16.
- 辻悟・高石昇・藤本淳三・石神亘・樋口景子・北浦誠子: ロールシャッハ・テストに反映された催眠暗示. ロールシャッハ研究, VI, 106-114.
- 碓井公明: 色彩効果に関する実験的研究 (I) . ロールシャッハ研究, VI, 19-34.
- 碓井公明: 老人のロールシャッハ反応に関する一研究——老人ホーム収容者について. 島根県立大学短期大学部紀要, 2, 1-8.
- 山本喜三郎・金久卓也: 神経性不食症——精神身体医学症例 (5) . 精神身体医学, 3 (5) , 292-297.

## ◆1964 年



- 阿部謙一・金子靖・森武夫：性倒錯的非行について．犯罪心理学研究，1 (2)，113-121.
- 秋谷たつ子・井村孝子・今井君子・小沢牧子・河村滯・佐藤允子・鈴木伸治・空井健三・高杉京子・福田啓子・松島淑恵・山田信子：ロールシャッハ・テストの臨床的適用について——Roy Schafer の著書から．ロールシャッハ研究，VII，107-125.
- 蛭川栄：陳旧性分裂病者における Rorschach Test の再試行に関する考察．臨床心理，3 (2)，78-84.
- 橋口英俊・大村彰道・大西文行：潜在的問題児のロールシャッハ特性．ロールシャッハ研究，VII，1-16.
- 橋本恵以子：典型的な精神分裂病者のロールシャッハ・プロトコル．同志社心理，11，1-6.
- 橋本健一・藤田一夫：性的犯罪者の心理特性に関する一考察．犯罪心理学研究，1 (2)，21-28.
- 藤岡喜愛：ロールシャッハ・テストによるパーソナリティー像試論．京都大学人文科学研究所 人文学報，20，82-99. [藤岡喜愛 (1992)：ロールシャッハ・テストによるパーソナリティー像試論．ロールシャッハ研究，34，139-156. 再掲.]
- 藤岡喜愛：ロールシャッハ・テストの方法論的見とおしに関する試論．京都大学人文科学研究所 人文学報，19，167-190.
- 飯田美智子：ロールシャッハ・テストによる児童の性格発達の継続的研究 I．ロールシャッハ研究，VII，71-94.
- 板谷美代子：医師に施行したロールシャッハ・テスト——解剖反応について．ロールシャッハ研究，VII，45-60.
- 岩井豊明・林正延：集団ロールシャッハ・テストの研究——ランキング・メソッドの一試案．大阪府立公衆衛生研究所研究報告 精神衛生編，1，13-16.
- 岩脇三良：心理学研究における実験者変数について (報告)．防衛大学校紀要，9，45-64.
- 上川路紀久男：ロールシャッハ・テストにみられる非行青少年と勤労少年の相違．ロールシャッハ研究，VII，33-43.
- 江見佳俊：Rorschach 反応の投影性に関する研究——統計形式とその特徴．臨床心理，3 (2)，62-70.
- 久保松喜信：ロールシャッハ・テストの不安反応——解剖反応，攻撃的反應と不安反応との関係．矯正医学，13 (2)，42-45.
- 村上英治：ロールシャッハ・テストに及ぼす文化的影響——平凡反応の分析．名古屋大学教養部紀要，8，12-21.
- 西尾明・後藤聰・伊東秀子：ロールシャッハ・テストの感情カテゴリーについて．臨床心理，3 (2)，71-77.
- 西尾明・関根忠直・緑川澄子・杉浦久子・伊東秀子：精神分裂病の平凡反応．ロールシャッハ研究，VII，61-69.
- 越智信子：幼稚園児のロールシャッハ反応の推移について．ロールシャッハ研究，VII，17-32.
- 越智信子：幼児のロールシャッハ反応．愛媛大学紀要 (第5部，教育科学)，11 (1)，137-143.
- 大原健士郎・小島洋：シンナー嗜癖の3例について．精神医学，6 (5)，363-367.
- 大伴茂：『ロールシャッハ・テスト』によってコムプレクスを見つける．In；現代っ子の心理 第3巻 (反抗・不満感・抑圧感・劣等感)．青山書店，pp.97-110.
- 関英馬：ヘロイン嗜癖者の人格研究——生活歴と心理テストによる考察．矯正医学，13 (4)，12-30.
- 関根忠直・緑川澄子・馬場宗雄・植元行男・土川隆史・青木順子：ロールシャッハテストと TAT による“Drive Content”の研究——精神分裂病・神経症に適用して．臨床心理，3 (2)，85-94.
- 田島昭・菱山珠夫・堀越伸行：一組の一卵性双生児に見られた強迫神経症の完全一致例．精神医学，6 (10)，739-745.
- 高橋茂雄：非行少年と大学生間のロールシャッハ反応の比較研究．心理学研究，35 (4)，169-179.
- 高橋茂雄：ロールシャッハ・インク・プロットの彩色・無彩色が刺激価に及ぼす影響．心理学研究，34 (6)，263-274.
- 高良武久・藤田千尋・中江正太郎・飯島裕・甘楽昌子・佐藤春夫：禪の心理学的研究．In；東京慈恵会医科大学精神神経科教室 (編)：高良武久名誉教授就任記念論文集．東京慈恵会医科大学精神神経科教室，pp.157-175.
- 高杉京子：陳旧分裂病患者におけるロールシャッハ研究．日本女子大学 人間研究，1，3-18.
- 玉井収介・湯原昭・山崎道子・今田芳枝・小沢牧子：いわゆる学校恐怖症に関する研究．精神衛生研究，13，41-85.
- 谷嘉代子：チック小児の心理テスト．大阪市立大学家政学部紀要，12，93-97.
- 甘楽昌子：小児期における不安と神経症との関連について．In；東京慈恵会医科大学精神神経科教室 (編)：高良武久名誉教授就任記念論文集．東京慈恵会医科大学精神神経科教室，pp.73-92.
- Tuzi, S. : Psychosomatic Study of Hypertension. *Japanese Journal of Medicine*, 3(2), 92-95.
- 植元行男：ロールシャッハ・テストを媒介として，思考，言語表現，反応態度をとらえる分析枠の考案とその精神病理研究上の意義．名古屋医学，87 (1)，297-335. [植元行男 (1974)：ロールシャッハ・テストを媒介として，思考，言語表現，反応態度をとらえる分析枠の考案とその精神病理研究上の意義．ロールシャッハ研究，XV・XVI，281-343. /In；名古屋大学医学部精神医学教室 (編) (1964)：村松常雄教授退職記念論文集．村松常雄教授退職記念会，pp.297-335. 再掲.]
- 若林慎一郎：児童神経症についての一考察．名古屋医学，87 (1)，245-296. [In；名古屋大学医学部精神医学教室 (編) (1964)：村松常雄教授退職記念論文集．村松常雄教授退職記念会，pp.245-296. 再掲.]
- 山田治・木村駿：全生活史健忘の臨床的研究．精神神経学雑誌，66 (10)，800-817.

## ◆1965年

秋谷たつ子：Werner Künzler, Über Blutdeutungen im Rorschachschen Formdeutversuch. ロールシャッハ研究，VIII，211-217.

- 新井清三郎・大脇三恵子・小沢牧子：Follow-up による小児発達研究(学令期の適応について). 小児科臨床, 18 (10), 1203-1213.
- 馬場礼子：境界例とその周辺領域——ロールシャッハ・テストによる精神力学的研究. 精神分析研究, 11 (6), 2-19.
- Bash, K.W. (著)・田代千枝子(妙訳)：追悼：Dr. Walter Morgenthaler. ロールシャッハ研究, VIII, 231-232. 【原著； Bash, K.W. (1968)：In memoriam: Dr. Walter Morgenthaler. *Journal of Projective Technique*, 29(3), 267-270.】
- Černý, J. (著)・山口昭平(訳)：In Memoriam Doz. Dr. Mea. Svetozar Nevole: 15. IV. 1910 / 11. IX. 1965. ロールシャッハ研究, VIII, 233-236. 【原著不明.】
- 鰐目敬：児童の社会的地位と性格の特質に関する一研究——不安傾向を中心として. 教育心理学研究, 13 (3), 141-145.
- 長谷川直義：ロールシャッハ・テスト Rorschach Test. In；産婦人科領域における心身症診療の手引. 金原出版, pp.25-26.
- Hertz, M.R.：The need to objectify the subjective in the Rorschach. ロールシャッハ研究, VIII, 2-25.
- 東山修二：ロールシャッハ(集団テスト)による予測. 井坂行男・坂本昇一(編)問題行動の早期発見——その方法と指導. 文教書院, pp.230-240.
- 堀口允子・広沢道考：欠陥分裂病患者の退行過程の測定に関する一研究. ロールシャッハ研究, VIII, 119-129.
- 古元順子：軽度の一酸化炭素中毒の既往歴を有し, 脳器質性異常を基盤にして発生した全生活史健忘の興味ある一症例について——とくに意識障害との関連を中心とした全生活史健忘の文献的考察. 岡山医学会雑誌, 77 (5-6), 773-794.
- 藤岡善愛・木坂和子・小西恒子：パーソナリティ. In；藤岡善愛・加藤秀俊・三宅一郎・米山俊直, 日米文化接触の研究——鹿児島県下農民の滞米経験(京大アメリカ研究シリーズ 1). 京都大学アメリカ研究所, pp.97-128.
- 市村潤：ロールシャッハテストによる早期非行予測の研究(I). 犯罪心理学研究, 2 (1), 9-16.
- 市村潤：ロールシャッハ・テストによる早期非行予測の研究(II). 犯罪心理学研究, 3 (1), 9-19.
- 市村潤：ロールシャッハ・テストによる児童発達の追跡的研究. 臨床心理, 4 (4), 235-248.
- 井上和子：心的機能の弾力性について——ロールシャッハ・テストによる一研究. ロールシャッハ研究, VIII, 57-69.
- 石原悟：ロールシャッハ・テストよりみた交通事犯少年の特徴について. 家庭裁判所調査官研修所 調研紀要, 8, 57-67.
- 板谷美代子：3歳児のロールシャッハ反応——家庭養育児, 施設養育児, 精神薄弱児の比較. ロールシャッハ研究, VIII, 97-117.
- 順天堂大学心理学グループ：Samuel J. Beck, The Rorschach experiment: ventures in blind diagnosis. ロールシャッハ研究, VIII, 191-209.
- 門脇正：神経症と分裂病の境界状態についてのロールシャッハ・テスト研究. 米子医学雑誌, 16 (5), 496-507.
- 片口安史：ロールシャッハ図版の刺激属性の分析——質問法(Inquiry)改善のための基礎研究. In；南博(編)心理学論集. 河出書房新社, pp.425-437.
- 片口安史・小泉英二・中山和子・金城朋子・小林旦子・藤島輝子・多賀野久子・野村東助・井上弘光・和田季子・五十嵐睦・鹿取淳子・島津滋子・高橋和子・小野美佐緒：ロールシャッハ法による問題児の人格変容の測定——遊戯治療施行前後の比較. ロールシャッハ研究, VIII, 131-158.
- 加藤昌義：緑内障患者の性格検査成績——特に矢田部ギルフオド性格検査及び、ロールシャッハテストについて. 日本眼科学会雑誌, 69 (9), 1418-1435.
- 菊池哲彦：ロールシャッハ・テストにおける「人間運動反応」についての一考察. 茨城大学文理学部紀要(人文科学), 16, 21-34.
- 岸本淳：老年精神障害の研究(第II報)——後年初発の非器質的精神障害について. 精神医学研究所業績集, 12, 75-88.
- 小松教之：一卵性双生児姉妹に現われた精神分裂病の精神測定的考察. 東北大学教育学部研究年報, 13, 141-154.
- 江見佳俊：Rorschach 刺戟の投影価. 愛知学院大学論叢(一般教育研究), 10, 81-96.
- 黒田喜久二：教護院での矯正教育による人格の変容について——ロールシャッハ・テストによる. 臨床心理, 4 (4), 249-256.
- 桑原寛・志賀耕三・小川暢也・上利進・川崎彰三・小野亨雄・高田亮介：ロールシャッハ・テスト下における身体反応——とくに初発反応時間と脈波との関係について. ロールシャッハ研究, VIII, 27-39.
- Linares-Maza, A. (著)・佐伯克(訳)：スペインにおけるロールシャッハ診断学について. ロールシャッハ研究, VIII, 219-219.
- 松村幸司：夫婦の対人関係によって生じた心身症の生活史的研究. 精神身体医学, 5 (5), 325-330.
- 松本忠久・上山碩：年少非行児のロールシャッハ類型——非行研究におけるロールシャッハ法の役割について. ロールシャッハ研究, VIII, 159-168.
- 三浦岱栄：一般概念ととくにロールシャッハ・テストからみた人格障害の持続について. 精神医学, 7 (3), 199-202.
- 三浦岱栄・小此木啓吾・馬場礼子・鈴木竜一：分裂病領域における人格障害の研究——破瓜病・分裂病後者・境界例のロールシャッハ・テスト知見から. 精神医学, 7 (3), 235-245.
- 森武夫：猟奇的犯罪を繰り返した大学生の鑑定例. 犯罪心理学研究, 3 (1), 20-28.
- 村瀬孝雄：カウンセリングにおける診断の問題——投映法の新しい意義をめぐって. 中野良顕(編)カウンセリングの展望. 誠信書房, pp.20-51.
- 村田正次・山内康弘・黒田健次・堀尾薫・谷本博司：登校拒否児童のロールシャッハ反応の研究——Location について. ロールシャッハ研究, VIII, 169-

174.  
 根岸達夫：精神分裂病とてんかんと境界領域に位置する非定型症例について——臨床的ならびに脳波学的研究。精神神経学雑誌，67（11），1102-1124。  
 野村東助・水島恵一：嗜癡患者のパーソナリティに関する予備的考察。せりがや園紀要，2，9-14。  
 小川捷之：自我の強さ（Ego Strength）の測定に関する研究——その 1。東京教育大学教育学部紀要 教育相談研究，11，107-122。  
 小川昭之・潮平朝俊・井上斎：間脳症候群を呈し，脳腫瘍を疑われた小児ヒステリーの 1 例。精神身体医学，5（4），233-239。  
 小川信男：離人症。In；井村恒雄・懸田克躬・島崎敏樹・村上仁（責任編集）精神病理学 4（異常心理学講座 10）みすず書房，pp.1-79。  
 太久保直義・金久卓也・菅正明・園田順一：心因性廃失。精神身体医学，5（4），245-251。  
 小野金次郎・小谷内美智子：幼児のロールシャッハ反応。臨床心理，4（4），225-234。  
 太田幸雄・三好郁男・川端利彦・中島浩・元村宏・楠部治・藤本文朗・井上和子・岡田幸夫・岩本信行・田淵健次朗・花田雅憲：頭部外傷の精神医学的研究。精神神経学雑誌，67（5），397-435。  
 太田幸雄・藤本文朗・立花恭子・川端利彦・井上和子：頭部外傷後の人格変化——主として心理テストによる（その 1，統計的，臨床的研究）。ロールシャッハ研究，VIII，71-84。  
 太田幸雄・藤本文朗・立花恭子・川端利彦・井上和子：頭部外傷後の人格変化——主として心理テストによる（その 2，人格変化の臨床像の分類と症例研究）。ロールシャッハ研究，VIII，85-96。  
 Raychaudhuri, M. and Maitra, A.K. : A Rorschach study of normal, convicts and incipient delinquent adolescents. ロールシャッハ研究，VIII，175-189。  
 十亀史郎：学校恐怖症の研究（I）——その生育史と症状発生の機制。児童精神医学とその近接領域，6（2），67-75。  
 空井健三：感情分析と動物内容分析。犯罪心理学研究，2（1），31-38。  
 昌子武司：わたしたちのアート・サービス ロールシャッハテスト。教育美術，26（1），52-53。  
 鈴木伸治・小沢牧子：ロールシャッハ図版の Out of focus in focus シリーズにおける固執反応——瞬間露出提示による試み。ロールシャッハ研究，VIII，41-56。  
 Takahashi, S. : A comparative factorial analysis of semantic structures of Rorschach inkblots in university students and juvenile delinquents. Japanese Psychological Research, 7(2), 69-74。  
 坪井考幸：爆発型精神病質人格の精神医学的研究。精神神経学雑誌，67（1），24-49。  
 上田順一：ロールシャッハ・テスト反応におよぼす検査者の影響に関する研究（II）——検査者の性・検査態度の影響。島根大学論集（教育学関係），14，73-83。  
 ◆1966年  
 馬場礼子：ある種の社会適応者に観察される sub-clinical な精神医学的病態について——ロ・テストに基づく精神力動の考察。臨床心理，5（2・3），79-84。  
 馬場禮子：心理学的診断のあり方。臨床心理学の進歩，1966年版，248-255。  
 馬場礼子：心理テストと精神分析——ロールシャッハ・テストを中心に。精神分析研究，12（5），3-6。  
 丁子邦男：知覚遮断の心理学的研究——精神分裂病とロールシャッハテスト。In；石橋教授退官記念論文集編集委員会（編）：石橋俊實教授退官記念論文集。東北大学医学部精神医学教室，pp.333-337。  
 遠藤辰雄：グリユックの社会的非行予測表の予測力をめぐる諸問題の考察。教育・社会心理学研究，6（1），11-24。  
 後藤忠久・小笠原暹・本間俊行・平野喬・吉田借迪：ガソリン吸嗅嗜癡——症例報告。精神医学，8（6），493-497。  
 浜治世：精神分裂病における知覚の固執性——ロールシャッハ図版と反転図形を用いて。同志社大学人文学会人文学，86，73-84。  
 浜治世：精神分裂病の陰影知覚障害。同志社大学人文学会人文学，91，12-24。  
 藤井久和：PSM の臨床における各方法の適用と限界——心理テスト。精神身体医学，6（5），288-291。  
 藤岡喜愛：ロールシャッハ・テストにおけるカラコルム・ナギール領民のモーダル・パーソナリティ。In；川喜田二郎・梅棹忠夫・上山春平（編）：人間——人類学的研究（今西錦司博士還暦記念論文集）。中央公論社，pp.181-223。  
 藤岡喜愛：狩猟採集民ワティンディガのパーソナリティ——パーソナリティの進化序論。人文学報，22，1-66。  
 Ichimura, J. : Ten year follow-up study on the early prediction of juvenile delinquency by means of the Rorschach test. Japanese Psychological Research, 8(4), 151-160。  
 片口安史：同性愛症者の投影反応——ロールシャッハ・テストと K-SCT を用いての研究。臨床心理学の進歩，1966年版，112-119。  
 片口安史：ロールシャッハ法——その断片的考察。In；井村恒雄・懸田克躬・島崎敏樹・村上仁（責任編集）：異常心理学講座，第二巻——心理テスト。みすず書房，pp.45-94。  
 片口安史：精神分析と心理検査——投映法における投映の概念。精神分析研究，12（5），1-3。  
 上出弘之：精神現在症（III心理テスト）。In；笠松章（編著）臨床精神医学 I 全面改訂 4 版。中外医学社，pp.128-155。  
 河合隼雄：心理テストと精神分析学。精神分析研究，12（5），9-10。  
 加藤正實：ロールシャッハテストより見たる精神分裂病者の存在様式並びに生活療法に関する一考察。In；石橋教授退官記念論文集編集委員会（編）：石橋俊實教授退官記念論文集。東北大学医学部精神医学教室，pp.354-360。  
 木場深志：Levine, M. etc., The Rorschach Index of Repressive Style, 1964. 臨床心理，5（2・3），58-60。

- Kikuchi, T. : A Scoring Method of Rorschach Test and Levy Movement Test for Discrimination of Accident Proneness in Motor Driver. *Tohoku psychological folia*, 23(1-2), 26-38.
- 江見佳俊：ロールシャッハ反応の投影性に関する研究——刺激から反応への一連の発生過程における深層の投影過程について. 愛知学院大学論叢(一般教育研究), 14, 99-109.
- 国吉政一：集団 Z テストによる児童・生徒の適応異常の発見に関する研究. 児童精神医学とその近接領域, 7 (4), 258-286.
- 宮井理広：精神運動発作性てんかんの治療過程についての器質力動論的考察——ロールシャッハ・テスト所見を通じて. In; 石橋教授退官記念論文集編集委員会(編)：石橋俊實教授退官記念論文集. 東北大学医学部精神医学教室, pp.368-375.
- 森野礼一・木瀬瀬正子・中新井滂子・佐藤玲子：放火児童の心理学的研究. 児童精神医学とその近接領域, 7 (2), 109-120.
- 本林富士郎・横瀬善正・杉本助男・竹原一雄・山本厚男・後藤倬男・寺西経信・鈴木初恵：長時間感覚刺激欠乏状態の多角的研究(II). 名古屋大学環境医学研究所年報, 18, 30-43.
- 村上英治：臨床心理学的診断をめぐる二, 三の問題. 臨床心理学の進歩, 1966 年版, 221-225.
- 村瀬孝雄：心理学的診断——とくに強迫症状について. 臨床心理学の進歩, 1966 年版, 226-232.
- 成田隆・角田隆・小野康夫：気管支喘息患者のロールシャッハテスト. 精神身体医学, 6 (3), 173-179.
- 南坊満里子・深津千賀子・馬場禮子・宗宮久仁子・三浦俊子・山本充子・小此木啓吾・北田穰之介：投映法テストによる比較家族研究. 臨床心理学の進歩, 1966 年版, 120-131.
- 西尾明：妄想型分裂病のロールシャッハ継列分析——事例研究による. 愛知県城山精神衛生相談所報, 2, 91-102.
- 西尾明・関根忠直・緑川澄子・伊東秀子：妄想型分裂病のロールシャッハ・パターンに関する研究. 愛知県城山精神衛生相談所報, 3, 9-19.
- 越智信子：児童のロールシャッハ反応の逐年的研究(I)——幼稚園期より小学 2 年まで. 愛媛大学教育学部紀要(V, 教育科学), 13 (1), 201-214.
- 小田晋：ロールシャッハ精神診断法 Rorschach-Test. In; 新井尚賢(編)異常性格——精神病質人格. 医学書院, pp.190-196.
- 小田原耕三：Orbito-ventromedial undercutting の精神医学的研究——主として術後一過性にみられる精神的ならびに身体的症状について. 日本医科大学雑誌, 33 (1), 11-32.
- 小川捷之：自我の強さ(Ego Strength)の測定に関する研究——文献的研究. 東京教育大学教育相談研究所教育相談研究, 7, 67-84.
- 奥瀬哲：加齢に伴う臨床心理学的特徴と病態生理学的変化の相互関係にかんする研究. 日本内科学会雑誌, 55 (9), 964-981.
- 大海作夫・松本和雄・角辻豊・高橋京子・田中迪生・柏木哲夫・金子仁郎：神経筋肉系の心身症の研究——書痙症、眼瞼痙攣症、痙性斜頸症について. 精神身体医学, 6 (5), 321-330.
- 小沢牧子・新井清三郎：正常小児の follow-up study (第 5 報)——5 カ年間の Rorschach を中心とした研究. 小児科臨床, 19 (7), 852-860.
- 佐藤忠司・橘玲子・西沢幸子：心理診断における判定確信について. 臨床心理学の進歩, 1966 年版, 73-79.
- 佐藤誠・岡本伸子：老年者に施行せる Rorschach Test. 浴風園調査研究紀要, 43, 63-68.
- 菅谷克彦：ロールシャッハ・テストによる治療効果測定に関する追試. 児童精神医学とその近接領域, 7 (3), 203-210.
- 鈴木正義：不適応感をもつ児童の自己概念とロールシャッハ反応. 北海道教育大学紀要(第一部, 教育科学編), 17 (2), 24-37.
- 鈴木正義：不適応感をもつ児童のロールシャッハ特性——クローパーの自我の強さの測定法の適用. 北海道教育大学紀要(第一部, 教育科学編), 17 (1), 42-53.
- Takahashi, S. and Zax, M. : The stimulus value of Rorschach Inkblots: a comparison of Japanese and American students. *Japanese Psychological Research*, 8(1), 38-45.
- 高橋哲郎：分裂病症状を呈する思春期精神障害の研究. 精神神経学雑誌, 68 (10), 1176-1197.
- 田中富士夫：ロールシャッハの「父親カード」と「母親カード」のセマンティック・ディファレンシャル法による意味構造について. 金沢大学法文学部論集(哲学編), 14, 29-50.
- 田中雅文・岡本聰美・十亀史郎：学校恐怖症の家族研究——その父親像を中心に. 児童精神医学とその近接領域, 7 (2), 121-131.
- Tsuji, S. and Kato, N. : Some investigations of parental preference in early childhood: an attempt to obtain a correspondence of verbally expressed preference with projectively expressed preference. *Japanese Psychological Research*, 8(1), 10-17.
- 辻悟：心理テストと精神分析学. 精神分析研究, 12 (5), 6-8.
- 津島信則：精神分裂病の治療過程に関する精神測定法的研究——ロールシャッハ・テストの追跡検査による器質力動論的考察. In; 石橋教授退官記念論文集編集委員会(編)：石橋俊實教授退官記念論文集. 東北大学医学部精神医学教室, pp.361-367.
- 上野轟：「病氣」の心理学的研究——“Disease Image”による接近の試み. 臨床心理, 5 (4), 165-175.
- 山本善三・小野道磨：Holtzman Inkblot Technique の臨床的研究——症例を中心とした Technique の比較. 犯罪心理学研究, 4 (2), 40-48.
- 吉田邦夫：うつ病心性と認知構造——ロールシャッハ・テストによる内因性うつ病の研究. In; 石橋教授退官記念論文集編集委員会(編)：石橋俊實教授退官記念論文集. 東北大学医学部精神医学教室, pp.341-353.
- 吉川武彦：ロールシャッハテストによる不安の研究——特に不安の顕在化と潜在化をめぐる精神力動について. 千葉医学会雑誌, 41 (6), 727-741. [吉川武彦

(1970) : ロールシャッハテストによる不安の研究——特に不安の顕在化と潜在化をめぐる精神力動について. *ロールシャッハ研究*, XII, 1-20. 加筆して所収.]

#### ◆1967年

相沢豊三・五島雄一郎・梅原実・村上恵一・小此木啓吾・馬場礼子・山田準子・穂積登：本態性高血圧症患者に対する多面的アプローチ. *精神身体医学*, 7 (4), 254-257.

新井清三郎：薬物の効果を何でとらえるか——発達過程と薬剤（てんかん児の follow-up を中心として）. *小児の精神と神経*, 7 (3), 139-146.

馬場礼子・小此木啓吾：精神分析的な精神療法の、ロールシャッハ再テスト法による分析のこころみ. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 210-221.

浜治世：精神分裂病者と神経症者の知覚発生過程——ロールシャッハ刺激を用いて. *同志社大学人文学会 人文学*, 96, 20-74.

藤岡喜愛：ロールシャッハ・テストにおける側頭葉てんかんの特徴. *臨床心理学研究*, 6 (2), 97-115.

Itatani, M. : Rorschach study of child mental development: the statistical treatment. *園田学園女子大学論文集*, 2, 37-59.

岩井寛・大原健士郎・藍沢鎮雄・小島洋：絵画表現と病状推移の相関——表現の変化に対する精神病理学的理解. *東京慈恵会医科大学雑誌*, 81 (3), 678-682.

岩崎徹也：治療的退行よりみた退行理論. *精神分析研究*, 13 (2), 2-28.

片口安史：投映法——ロールシャッハ法（インクプロット・テスト）. In: 井村恒郎（監修）*臨床心理検査法*, 第二版. 医学書院, pp.127-197.

加藤義明：時間評価と人格的要因. *心理学研究*, 38 (1), 40-45.

北村さち：うつ病者についてのロールシャッハテストの研究. *三重医学*, 11 (1), 9-27.

小滝信夫・引野友子・安部利一・三代宏子・門脇俊江・新道小枝子：登校拒否児のロールシャッハ・スコアについて. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 47-54.

国吉政一：集団 Z テストによる児童・生徒の適応異常の発見に関する研究（続）. *児童精神医学とその近接領域*, 8 (2), 99-122.

倉石精一（編），出井淑子・高木豊志子・田畑治・東山紘久・小林孝彦・福井康之：最近の臨床心理学におけるいくつかの研究課題——1960～1966. *教育心理学年報*, 6, 87-103.

Kurosawa, R., Okada, S., Wakoh, T., Suwa, H., Sogame, S., Tanaka, M. and Inachi, S. : Process and reactive types of schizophrenia: Analysis of symptoms, course, Rorschach testing, treatment, and intra-familial mental disorders. *Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica*, 21(4), 251-270.

黒沢良介：症状と経過からみた分裂病の類型. *精神医学*, 9 (1), 22-28.

光永朋美：小児糖尿病児についての一考察——ロールシャッハ反応を中心に. *臨床心理学研究*, 6 (2), 87-96.

本明寛・毛利昌三・沢文治：硬さに関する研究——運動機能障害との関係について. *心理学研究*, 38 (2), 73-82.

本明寛・織田正美：人格適応と高校学業成績の予測. *心理学研究*, 38 (4), 202-209.

村上英治・中村勝治：ロールシャッハ法における現象学的接近——反応の pattern として示される意識の流れの現象学的理解. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 66-74.

村瀬孝雄・村瀬嘉代子：総合診断における自己像把握の現象学的研究. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 301-308.

大久保直義・吉牟田直・金久卓也：頸直性斜頸——精神身体医学症例 (10). *精神身体医学*, 7 (4), 262-269.

大熊文男・山口昇一：若年性高血圧症の心身医学的研究. *精神身体医学*, 7 (4), 249-253.

小沢勲・加藤典子・高木隆郎：難聴児のパーソナリティについて. *児童精神医学とその近接領域*, 8 (4), 342-352.

小沢牧子：Nettie H. Ledwith, A Rorschach Study of Child Development. *臨床心理学研究*, 6 (2), 127-130.

斎藤久子・水山進吾・富田京子：躰と母親像. *小児の精神と神経*, 7 (2), 114-118.

坂敬一（1967）：強迫神経症傾向を呈した事例. *淡海（滋賀県立淡海学園紀要）*, 10, 31-38.

坂敬一（1967）：早発非行を示した事例. *淡海（滋賀県立淡海学園紀要）*, 10, 39-48.

関根忠直・西尾明・緑川澄子：精神分裂病・神経症における人間関係（特に親子関係）に関する研究——ロールシャッハ・テスト, TAT を用いて. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 55-65.

品川孝子：性格テスト——ロールシャッハ・テスト. 宮原誠一・大浜英子・早川元二（監修）*性格とはどんなものか（家庭の教育全集3）*. 主婦の友社, p.88.

塩崎昇吉・竹中久三・保坂勝夫・広瀬信行・大山勝・佐藤襄一・大内繁・堺田マサ：慢性 Meproamate 中毒における禁断症状について. *昭和医学会雑誌*, 27 (13), 1057-1059.

鈴木正義：不適応感をもつ児童へ適用した片口修正 BRS について. *北海道教育大学函館人文学会 人文論究*, 27, 41-49.

鈴木伸治・井村孝子・光永明美・松島淑恵・小沢牧子・宮崎成子・高杉京子・吉本弘子・秋谷たつ子：ロールシャッハ法における血液反応について. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 87-96.

鈴木竜一：社会復帰過程からみた分裂病者の人格障害——予後調査およびロールシャッハ再テストの知見をめぐって. *精神医学*, 9 (3), 179-183.

竹原一雄・鈴木初恵・久野信行：心理検査よりとらえられた個性と唾液の酸化濃度変化との関係について. *名古屋大学環境医学研究所年報*, 18, 192-194.

竹原一雄・鈴木初恵・久野信行：集団に対する SCT, Rorschach tcst 及び INV の実施成績と項目間の相関について. *名古屋大学環境医学研究所年報*, 18, 188-191.

- 辻悟:PSMにおける器官選択——精神身体医学における心的特性の特異性について. *精神身体医学*, 7 (1), 31-35.
- 塚本三朗:ロールシャッハ法. In; 本明寛(編):*心理学臨床入門*. 福村出版, pp.136-143.
- 植元行男・土川隆史・長谷川悦子・安藤公子・武田暢子:思春期における異常な確信的体験について(そのII)——ロールシャッハ・テストによる考察. *児童精神医学とその近接領域*, 8 (3), 168-178.
- 若林慎一郎:児童チックの強迫性についての考察. *児童精神医学とその近接領域*, 8 (3), 196-205.
- 山中みち子・星野命:ロールシャッハ反応に現われた心身症の身体像(body image boundary)の検討——慢性蕁麻疹群と内臓疾患群との比較. *臨床心理学の進歩*, 1967年版, 75-86.
- Zax, M. and Takahashi, S.: Response styles among Japanese and American children. *Japanese Psychological Research*, 9(2), 58-61.
- ◆1968年
- 秋谷たつ子:血液反応の精神病理学. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 83-102.
- 秋山誠一郎:内田勇三郎とロールシャッハ法. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 241-244.
- 安藤一也:腹部症状を伴う脳脊髄炎症の精神身体医学的検討——とくにパーソナリティを中心として. *精神身体医学*, 8 (2), 86-92.
- 浅香昭雄:Klinefelter 症候群の精神医学的研究. *精神神経学雑誌*, 70 (11), 990-1018.
- 馬場礼子・深津千賀子・餅田彰子・吉田直子・小此木啓吾:精神医学的臨床所見との対応からみた投影法テスト. *臨床心理学の進歩*, 1968年版, 123-132.
- 福島章:「純粋窃盗犯」の人格特性. *矯正医学*, 17 (3), 167-185.
- 福島章:窃盗累犯の研究——意志欠如者の犯罪精神医学および性格学への一寄与. *精神神経学雑誌*, 70 (10), 853-881.
- 言語条件づけ研究会:言語条件づけの諸研究(1). *心理学研究*, 39 (5), 266-277.
- 萩原弥四郎・仙波恒雄・吉川武彦・中村征一郎:熱電効果による体表循環の測定(III)——情動の精神生理学的研究. *千葉医学会雑誌*, 44 (3), 250-255.
- Hori, A. and Akimoto, T.: Four cases of sexual perversions. *The Kurume Medical Journal*, 15(3), 169-178.
- 藤岡喜愛:パーソナリティの進化. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 1-16.
- 兵働邦彦・川崎彰三・桑原寛・小川暢也:ロールシャッハ・テスト下における身体反応——とくに色彩ショックと脈波との関係について. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 45-56.
- 市村潤:運動反応とその領域に関する研究. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.51-74.
- 出井淑子:ロールシャッハ法による児童期における自我機能の発達過程の分析. *京都大学教育学部紀要*, 14, 100-121.
- 板谷美代子:大学の科学技術職にある各教職群と俳優群に施行したロールシャッハテスト. *臨床心理学研究*, 7 (3), 167-176.
- 岩崎功三:問題飲酒者の臨床的および脳波学的研究. *矯正医学*, 17 (1), 13-44.
- 上川路紀久男:催眠とロールシャッハ法. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 167-179.
- 金子仁郎・辻悟・古荘和郎・林正延:分裂病家族の人格特徴——ロールシャッハ・テストによる自我構造論. *精神医学*, 10 (10), 774-780.
- 金子仁郎・辻悟・林正延・古荘和郎:精神分裂病家族の家族内コミュニケーション. *精神医学*, 10 (10), 781-787.
- 木場深志:父親および母親に対する感情とロールシャッハ第IVおよび第VIIカードにおける人間運動反応との関連. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.110-115.
- 木場深志:ロールシャッハ人間運動反応と時間評価について. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.96-100.
- 木場清子:ロールシャッハ・テストのM反応の型とMMPIとの関係. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.116-122.
- Kikuchi, T.: Single Dosage of Chlorpromazine and Rorschach Performance. *Tohoku psychologica folia*, 26(1-2), 51-65.
- 小谷野柳子:一強迫神経症者の考察——ロールシャッハ・テストとの対応. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 103-120.
- 松田祥子:ロールシャッハテストによる精神薄弱児の類型学的研究(II). 旭出学園教育研究所 *精神薄弱児教育の研究*, 2, 113-133.
- 松岡高:ロールシャッハ・テストによる吃音者のパーソナリティの研究. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 17-29.
- 光永明美:S. Cotte, L'interprétation "Dent" dan le test de Rorschach. *ロールシャッハ研究*, IX・X, 237-240.
- 宮考一教授還暦記念論文集刊行会:運動反応関係論文抄録. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.149-188.
- 三好郁男:頭部外傷後の神経症の臨床的研究——その生活史的, 力動的追及. *精神神経学雑誌*, 70 (6), 541-560.
- 森幸栄:言語化抑制と人間運動反応:ウェルナー理論に関する一実験的研究. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編):*ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念論文集刊行会*, pp.89-95.
- 森重敏:父-母-子関係と子どもの性行など. In; 子ど

- もと家庭環境(乳幼児の教育5). 福村出版, pp.96-111.
- 村瀬孝雄: ロールシャッパ反応への現象学的接近. ロールシャッパ研究, IX・X, 181-200.
- 村田正次・黒田健次・谷本博司・山内康弘: 登校拒否児童のロールシャッパ反応(続報)——DeterminantとContentについて. ロールシャッパ研究, IX・X, 31-43.
- 武藤道代・村瀬孝雄: 登校拒否児の類型化に関する一方法論的考察. 臨床心理学研究, 7(2), 95-105.
- 大塚義孝: いわゆる精神分裂病における運動反応について——主としてソンドィ的自我心理学の立場から. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.131-148.
- 大塚義孝(1968): 祈禱性感応精神病の1家族例——第II部, 臨床心理学的考察. 臨床心理学研究, 7(2), 115-127.
- 大塚義孝: 運命心理学よりみたロールシャッパ反応の意義. ロールシャッパ研究, IX・X, 201-215.
- Saito, K.: Relationship between the ego functioning and the phenomenal self: a study on psychological integration for adjustment. Psychologia, 11, 59-66.
- 坂本慶一: フランス農村調査の一記録. 農林業問題研究, 14, 90-95.
- 佐藤忠司・小林摂子・橘玲子: 精神病者の症状変化とRorschach Test、Bender Gestalt Testとの関係——各指標の固有漂動性の検討. 臨床心理学の進歩, 1968年版, 225-236.
- 酒川靖一郎: 脳性麻痺患者のロールシャッパ運動知覚について. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.101-109.
- 佐治守夫(編): わが国における最近の研究——クライエント中心療法をめぐる. In; 友田不二男・堀淑昭・伊東博・佐治守夫(編): わが国のクライエント中心療法の研究(ロージャズ全集, 第18巻). 岩崎学術出版社. pp.157-270.
- 七条小次郎: 気管支喘息. 日本内科学会雑誌, 57(7), 731-749.
- 庄盛敦子: いわゆる境界例についての臨床的研究. 岡山医学会雑誌, 80(11-12), 1123-1143.
- 杉山善朗・近藤文衛: 糖尿病患者のロールシャッパ・テスト. ロールシャッパ研究, IX・X, 139-151.
- 鈴木正義: 自我の強さの二つの測度の関係についての検討——バロンのEs尺度とクロツパーのRPRS. 北海道教育大学紀要(第1部C), 19(1), 42-55.
- 鈴木達也: 宮教授と金沢ロールシャッパ研究会. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.189-190.
- 多田治夫: 共感性の問題. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.26-34.
- 多田治夫: ロールシャッパ運動反応と自己像の関係. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.123-130.
- 多田治夫: 運動反応の成立機制に関する研究の概観——運動反応と実際の運動との関係. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.3-10.
- 田頭悟: 精神分裂病, 神経症及び境界症例のロールシャッパ・テストによる研究. 長崎医学会雑誌, 43(8), 732-748.
- 高橋茂雄・Zax, M.: 日本人児童におけるロールシャッパ・インクブロットの刺激価. ロールシャッパ研究, IX・X, 153-166.
- 田中富士夫: 人間運動反応と知能との相関研究の概観. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.11-25.
- 田中富士夫: 六才児におけるロールシャッパ運動反応と知的機能. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.75-88.
- 田中富士夫: ロールシャッパ法における質疑の問題——決定因の記号化. ロールシャッパ研究, IX・X, 217-231.
- 田中富士夫: 運動反応の型の問題. In; 宮考一教授還暦記念論文集刊行会(編): ロールシャッパ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念. 宮考一教授還暦記念論文集刊行会, pp.35-47.
- 東京都立教育研究所三鷹分室 ロールシャッパ研究班: Ernest G. Schachtel, Experiential foundations of Rorschach's test. ロールシャッパ研究, IX・X, 232-236.
- 辻悟・石神互・鳥居浄子: 共感性とロールシャッパ・テストにおける色彩反応について. ロールシャッパ研究, IX・X, 121-137.
- 植元行男・安藤公子・土川隆史・梅垣弘・長谷川悦子・須崎暁子・櫛田ますみ・川島佳子: ロールシャッパ・テストを通じての登校拒否の精神病理学的考察. 児童精神医学とその近接領域, 9(4), 253-267.
- 和田武雄・奥瀬哲・近藤文衛・池下照彦・松元博之: 内科領域における向精神薬治療に関する考察——NC123治療を中心として. 精神身体医学, 8(2), 131-138.
- 渡辺雄三・村上栄治: ロールシャッパ法における自我防衛機制——性反応をとおしての一考察. 臨床心理学研究, 7(2), 73-83.
- 山中美智子: 精神身体症における不安と身体像——ロールシャッパ・テストによる検討. ロールシャッパ研究, IX・X, 57-82.
- 矢野照男: ロールシャッパ法の適用による夫婦関係調整事件における一予測. 家庭裁判所調査官研修所 調研紀要, 13, 124-135.

◆1969年

赤松晶子: 気管支喘息のロールシャッパテスト——症状

- の変化と再テストとの関連性から、その人格特徴への一考察. 臨床心理学研究, 8 (3), 137-150.
- 馬場禮子: ロールシャッハ・テスト. In ; 片口安史・秋山誠一郎・空井健三 (編): 臨床心理学講座, 第 2 巻. 人格診断. 誠信書房. pp.119-136.
- 江崎富男: 登校拒否児のロールシャッハ反応と収容治療による人格変化の事例的研究. ロールシャッハ研究, XI, 207-219.
- 深津千賀子: 精神分析的な心理療法における精神内界の変化の測定——ロールシャッハ再検査法を通して. ロールシャッハ研究, XI, 103-120.
- 古牧節子: 小保内虎夫先生を想う. ロールシャッハ研究, XI, 255-258.
- 言語条件づけ研究会: 言語条件づけの諸研究 (2). 心理学研究, 39 (6), 319-334.
- 浜治世: 行動異常の測定. In ; 実験異常心理学. 誠信書房, pp.189-230.
- Hashi, N., Tsutsumi, S. and Tsuda, K. : The First Case Report on the YY Syndrome (YYY Male) in Japan. *Proceedings of the Japan Academy*, 45(1), 63-67.
- 橋口英俊: Orbito-Ventromedial Undercutting-HIROSE (眼窩, 下内側面の皮質下白質切離術) 施行前後のロールシャッハ反応——ある強迫神経症者の例から. 東京経済大学人文自然科学論集, 22, 1-39.
- 橋本恵子・橋本幸: ロールシャッハ図版の象徴的意味に関する実験的研究——精神分裂病者を対象に. ロールシャッハ研究, XI, 31-40.
- 日比裕泰: 精神分裂症のロールシャッハ平凡反応に関する研究——主として運動反応との関連. ロールシャッハ研究, XI, 41-56.
- 平田富美子: 老人のロールシャッハ反応の研究. ロールシャッハ研究, XI, 57-66.
- 蛭川栄・生田博之・鈴木正弥: 投射法 (Projective method). In ; 臨床心理学——技法とその背景. 黎明書房, pp.91-125.
- 星野命: 宮考一教授還暦記念論文集刊行会 (編) ロールシャッハ運動反応の研究. ロールシャッハ研究, XI, 243-245.
- 細川清・西村幸子・池田久男: 著明なてんかん性要因を示し、挿間性昏迷状態をくりかえした非定型精神病の 1 例. 岡山医学会雑誌, 81 (1-2), 71-83.
- 出井淑子: 自我機能からみた児童期における人格適応の発達の研究. ロールシャッハ研究, XI, 139-158.
- 板谷美代子: 脊髄損傷患者の心理学的検査 (I) ——ロールシャッハ反応について. 園田学園女子大学論文集, 4, 119-133.
- 伊東恵子: 精神遅滞児のパーソナリティに関する一考察——ロールシャッハ法による自我機能の観点から. ロールシャッハ研究, XI, 159-180.
- 片口安史: テスト・バッテリー ——事例を用いての考察. In ; 片口安史・秋山誠一郎・空井健三 (編): 臨床心理学講座, 第 2 巻——人格診断. 誠信書房, pp.226-250.
- 加藤董香: 自閉症児の両親のロールシャッハテスト. 大阪府立公衆衛生研究所研究報告 (精神衛生編), 7, 23-33.
- 木戸又三・坪内順子・今村正光: 年少非行少年における脳波と非行およびロールシャッハ所見との相関. 犯罪学雑誌, 35 (5), 193-203.
- 木村賀代子・山本和郎: ロールシャッハ・テストにおける知能評価に関する一研究. ロールシャッハ研究, XI, 67-87.
- 小松教之: 一女子高校生の登校拒否の原因論的考察——とくに症状の推移と心理学的諸検査結果との関連をめぐって. 福島女子短期大学紀要, 1, 1-25.
- 小谷野柳子: 体臭を訴える患者の疾病学的な位置づけと病態の意義. 精神医学, 11 (5), 337-341.
- 楠見栄: Theodora Alock, *The Rorschach in practice*. ロールシャッハ研究, XI, 247-254.
- 前川純子・武居弘・浅香昭雄: てんかん児の知能と性格. 児童精神医学とその近接領域, 10 (1), 43-60.
- 永田佳子・鈴木貞雄: 陳旧分裂病患者へのロールシャッハテストの応用. 岩手県立病院医学雑誌, 9 (1), 51-54.
- 中村征一郎: 熱電効果による体表循環の測定 (V) ——情動の精神生理学的研究 (2). 千葉医学会雑誌, 45 (2), 270-276.
- 野沢栄司・清水晶子: 児童のロールシャッハ反応——各指標の年齢的推移を中心として. ロールシャッハ研究, XI, 189-206.
- 小田晋: 非行少年における有機溶剤酩酊の精神医学的研究. 精神医学, 11 (11), 893-900.
- 小川捷之・内山喜久雄・氏森英亜・茨木俊夫・河野良和: 高所恐怖の類型と心的特性 (その 2, 投映法的接近) ——高所恐怖の研究 I. 精神療法研究, 1 (2), 114-125.
- Raychaudhuri, M. and Mukerji, K. : Effects of inhibition of agitated-aggressive expressions of Rorschach movement responses: a validation study. ロールシャッハ研究, XI, 181-188.
- 斎藤久美子: 「自我機能」と「現象的自己」との関係における統合作用について. 四天王寺女子大学紀要, 1, 1-27.
- 斎藤久美子: ロールシャッハ反応と自己評定との対応性について. ロールシャッハ研究, XI, 121-138.
- 佐治守夫: 精神分裂病者に対する心理学的接近——序論. 臨床心理学研究, 7 (4), 201-210.
- 佐藤忠司・岩尾摂子・竹越悠紀子: ロールシャッハ反応の認知決定過程の研究. ロールシャッハ研究, XI, 15-30.
- 仙波恒雄・萩原弥四郎・中村征一郎・吉川武彦・大塚明彦: 熱電効果による体表循環の測定 (VI) ——情動の精神生理学的研究. 千葉医学会雑誌, 45 (2), 277-283.
- Shichijo, K. : Asthma Bronchiale. *Japanese Psychological Research*, 8(1), 1-5.
- 下仲順子・木村清・藤井久和: ロールシャッハテストからみた高校登校拒否生の人格特徴についての研究. 大阪府立公衆衛生研究所研究報告 (精神衛生編), 7, 34-38.
- 篠原睦治・大山信郎: 精神薄弱児 (中学生) の行動類型に基づくロールシャッハ反応内容分析. 東京教育大学



教育学部紀要, 15, 111-119.

園田順一・福島忠: 青年期まで続いた心因性無言症の一例. 臨床心理学研究, 8 (2), 94-99.

空井健三: Deviant Verbalization について——距離による考察. ロールシャッハ研究, XI, 231-242.

杉本助男・木田光郎・鈴木初恵・寺西経信・山本厚男: 長時間感覚刺激欠乏状態の多角的研究 (V-2) ——ロールシャッハ・テストの分析から見た 120 時間 SD の効果. 名古屋大学環境医学研究所年報, 21, 41-44.

橋玲子・佐藤和枝・高橋道子・内藤福子・運上司子: ロールシャッハ・テストの色彩反応について——タキストスコープの色彩知覚との関係から. ロールシャッハ研究, XI, 1-14.

高木豊志子: 情緒的統合性と自我障害の関係——ロールシャッハ・テストと意味微分法 (SD 法) による分析. 京都大学教育学部紀要, 15, 103-119.

高橋雅春: 殺人少年のロールシャッハ反応. 犯罪心理学研究, 6 (2), 67-70.

遠山尚考・吾郷晋浩・青木宏之・遠山純子: ロールシャッハ予後評定尺度と修正 BRS の臨床的妥当性に関する一研究——精神分析的精神療法を行った心身症を対象として. ロールシャッハ研究, XI, 89-102.

辻悟: 投映法. 精神医学, 1 (11), 848-857.

辻悟: ロールシャッハ・テスト Rorschach Test. In ; 秋元波留夫・井村恒郎・笠松章・三浦岱栄・島崎敏樹・田椽修治 (編): 日本精神医学全書, 第 2 巻——診断. 金原出版, pp.58-71.

渡辺雄三: ある分裂病者の挫折と崩壊——心理学的諸検査法による人間学的考察. 臨床心理学研究, 7 (4), 211-221. [村上英治・渡辺雄三・池田博和・細野純子 (1977): ロールシャッハの現象学——分裂病者の世界. 東京大学出版会, pp.136-155. 加筆して所収.]

山角博: 思春期心性と離人症に関する力動精神医学的研究——特に高校生の精神医学的調査を中心として. 千葉医学会雑誌, 45 (3-4), 423-440.

山川哲也・志賀耕二・鈴木道子・安武紳子・小川暢也: 集団発生をみた過呼吸症候群の観察. 精神身体医学, 9 (2), 103-109.

山中美智子: ロールシャッハ・テストによる円形脱毛症群の身体像の研究. ロールシャッハ研究, XI, 221-230.

実物を確認できなかったため一覧から除外したものは、次の 4 編である (カウントもしていない)。

森彬 (1960): 性的非行少年のロールシャッハ反応について II——体験型を中心とする一考察. 矯正職務研究, 5, 48-53.

村田正次・黒田健次 (1960): ロールシャッハ・ランキング・テストの研究. 兵庫県中央児相研究シリーズ, VI.

西谷裕・大塚義孝 (1960): 原子爆弾被災者の神経学的及び臨床心理学的研究——特に脳波およびロールシャッハ法による検査. 昭和 35 年度原子爆弾被害調査委員会報告書, pp.1-7.

大西憲明・石川啓 (1961): 人格構造の数量的客観的研究——(1) 集団ロールシャッハ・テストの検討. 大阪市立大学心理学研究室.

## V おわりに

以上により本稿は、1960 年代のわが国の RIM 文献に関して最も高い精度で情報を提供することとなる。また前報と今回の報告により、1930～1969 年の 40 年間で、日本では 824 編の文献の存在が明らかになり、一覧としてまとめられた。この数は他技法と比べても圧倒的に多い。RIM ユーザーである筆者らは、今後も、数だけでなく高い質の研究報告が報告され続けることを期待している。

最後に、1930～1969 年の文献数の推移を線グラフで示しておく (図 1)。これは、大雑把ではあるけれども、さまざまな情勢下で RIM 研究に従事し、日本の RIM の礎を築いた先達たちの軌跡である。

## 引用文献

佐渡忠洋・田口多恵・伊藤宗親・田中生雅・山本眞由美 (2012) 本邦におけるロールシャッハ法に関する文献一覧——1959 年までの黎明期. 岐阜大学カリキュラム開発研究, 29 (1), 24-38.

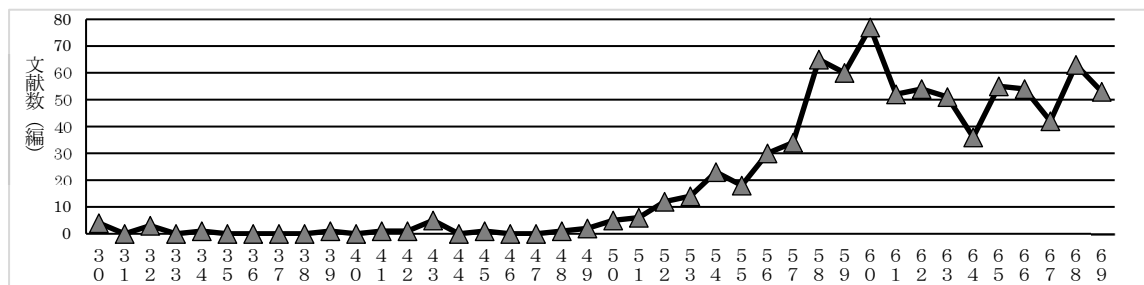


図 1 日本におけるロールシャッハ文献数の推移 (1930～1969 年)